

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500329
法人名	有限会社 菽の台
事業所名	グループホーム・カミングケアステーション
所在地	愛媛県新居浜市政枝町2丁目3番32号
自己評価作成日	平成24年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

居室に閉じこもってしまわないように、フロアを広く取っており、居室を出るとすぐにすぐにフロアになっており、他の入居者方々と会話が弾むようになっています。これまでにご利用されていた日常生活用品などを持ってこられて出来るだけ在宅での生活環境に近い状態をたもてるように配慮しています。南側に農園と花壇があり、スタッフと共に野菜作りやお花作りに取り組んでいます。お日様のもとで土を耕し、収穫物を調理に使い出来る範囲で調理にも参加できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●開設時、地域の役員の方にあいさつに出向いた際、「自治会の総会時に事業所の説明をしてください」との話があり、施設長等が説明に行かれた。地域の方は、熱心に説明を聞いてくださり、事業所も自治会に加入して、地域行事等にも積極的に参加されている。青木神社の祭りにも出かけられ、地域の方達に交じり、利用者も大きな声で歌を歌ったりされた。利用者の様子を見た地域の方が、事業所に関心を持ってくださり、その後、見学に来られた方も複数あった。●事業所では、職員の人員配置を手厚くして、利用者が安全に生活できるような支援に努めておられる。事業所サービスは、「法人のデイサービスが基盤」となっており、レクリエーションに力を入れて取り組まれている。職員は、研修等にも出かけてレクリエーションを学んでおられ、体操やゲーム・歌等を多く採り入れて、利用者の「たくさん笑顔」を引き出せるような支援に取り組まれている。育児休暇を取っている職員や、育児休暇明けで復帰した職員もあり、法人全体で子どもがいても働きやすい職場環境作りに取り組んでおられる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム・カミングケアステーション

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 藤田 千登世

評価完了日

平成24年10月25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所内の意識付けのため掲示し、研修時などに定期的に振り返りを行うように取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 母体法人は、平成13年から、市内で宅老所やデイサービス、訪問介護事業所を展開されており、利用者からの要望もあって事業所を開設された。事業所は、「自分だったら入居したいホーム・親を利用させたいホーム」を目指してグループホームを開設されており、開設時、職員で話し合い、「家庭により近い環境の中で、自分らしさを大切にたくさんの笑顔と自信を持って生活できる場を提供します」と理念を作成されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事(運動会や春・夏祭り・芋炊き会等)には出来る限り参加をしている。また、自菜園でできたジャガイモを近所におすそ分けをさせていただいたり、三味線等のボランティアの方々やデイサービスとの交流会等を行っている。	
			(外部評価) 開設時、地域の役員の方にあいさつに出向いた際、「自治会の総会時に事業所の説明をしてください」との話があり、施設長等が説明に行かれた。地域の方達は、熱心に説明を聞いてくださり、事業所も自治会に加入して、地域行事等にも積極的に参加されている。今年の地域の盆踊り大会は雨のため、公民館の2階で開催されたが、地域の方が利用者をおぶって上がってくださり、一緒に楽しまれた。又、青木神社の祭りにも出かけられ、地域の方達に交じり、利用者も大きな声で歌を歌ったりされた。利用者の様子を見た地域の方が、事業所に関心を持ってくださり、その後、見学に来られた方も複数あった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 見学希望者は随時受け入れを行い丁寧に対応し、地域の方々にもどのような施設か開放しバザー等で見学をし、理解してもらえるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 奇数月の第3木曜日に相談室を利用して開催している。活動報告や情報交換などを行っている。	
			(外部評価) 会議時は、地区や校区の自治会長や公民館長、民生委員の方が参加してくださり、建物内の「相談室」で開催されている。会議では、利用者の介護度等、利用状況や、又、行事や菜園作り、レクリエーションの取組み等を報告して、質疑応答の時間を設けておられる。今後さらに、会議に利用者やご家族、又、利用者にかかわる方達にも参加いただけるよう、働きかけていかれてほしい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者とは、情報交換を行うように努めている。制度についての不明な点などその都度確認させていただいている。市の介護相談員受け入れも行っていきたいと思っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方が参加してくださり、「車の利用者が多いが、元気なホームですね。生き生きしてますね」と感想を話してくださった。外部評価の実施について、地域の方から「評価を実施するメリット」等について質問が出された際、市の担当者は持ち帰り、後日返事をくださった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束は行っていないが言葉や抗精神役での拘束の危険性や防止を学んでいきたい。研修や勉強会などで学ぶ機会を設けていきたい。	
			(外部評価) 利用者が落ち付かない様子の方、職員は、会話をしたり、夜間時、時には添い寝される等して、利用者が穏やかに過ごせるように取り組まれている。玄関は施錠せず、調査訪問時は、ドアホンを鳴らしてご家族が入って来られる様子が見られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止法について、職員研修を実施して、定期的に学ぶ機会を設け、虐待や不適切なケアについての理解を深め発生防止に取り組んでいきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、制度活用ができるよう学んでおきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項を十分に説明するように努めている。家族などの不安や疑問点にはその都度、説明を行い理解、納得していただくように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時などには意見や要望等を個別に確認するように努めている。家族会などを開催し気軽に意見交換できる場を確保していきたい。	さらに、ご家族に事業所のサービスを具体的に知ってもらえるよう、情報提供に工夫されてはどうか。ご家族との情報のやり取りや家族会等のコミュニケーションを今後も重ねられ、「ご家族も、事業所とともに利用者を支えるケアパートナー」として、理解や協力が得られるよう、関係を深めていかれてほしい。又、ご家族も一緒に認知症のことについて勉強する機会や、ケアについて話し合うような機会を作っていかれてはどうか。
			(外部評価) 行事にご家族が参加された際等を捉えて、施設長は、「家族会」を行う等して、ご家族とお話する時間を設けておられる。ご家族の来訪時には、介護記録を見ていただけるよう提示されたり、質問があれば答えたりされている。利用者個々の写真は、A4サイズに引き伸ばし居室に置いておられ、ご家族が来られた際には一緒に見られるようにされている。調査訪問時は、ご家族が冬用の洋服を持って来られ、居室で一緒に過ごしておられる様子が見られた。来訪が少なめのご家族や遠方のご家族とは、電話で日頃の様子を伝えたり、毎月送付する書類に手紙を添えて報告されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会等を開催しその中で提案された意見を反映できるようにしている。	
			(外部評価) 事業所では、職員の人員配置を手厚くして、利用者が安全に生活できるような支援に努めておられる。事業所サービスは、「法人のデイサービスが基盤」となっており、レクリエーションに力を入れて取り組まれている。職員は、研修等にも出かけてレクリエーションを学んでおられ、体操やゲーム・歌等を多く採り入れて、利用者の「たくさんの笑顔」を引き出せるような支援に取り組まれている。育児休暇を取っている職員や、育児休暇明けで復帰した職員もあり、法人全体で子どもがいても働きやすい職場環境作りに取り組んでおられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は毎日事業所へ出勤し、一人ひとりとの関わりを大切にしている。働きやすい職場作りを努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。研修で学んだことをスタッフ会などで職員に伝える機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型部会に参加し、他事業所との交流や勉強の機会をいただいている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 個別に相談する機会を多く持ち、本人の困っていること、不安なこと要望などの確認を行って、ご本人をよく理解できるよう努め、入居による環境変化からくるストレスを軽減できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	入居前の訪問時に家族などに困っていること、不安なことや要望などを聞き確認している。また、事前に見学に来ていただき、上記のような確認を行い支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	本人やご家族と話し合い、状態や状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極め、ニーズに応じて他のサービス利用も検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	生活の中で利用者ができることはなるべく自分でできるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	家族には生活状況の事や現状などを面会時や電話などでお伝えするようにしている。また、写真などで家族間で会話が弾むように配慮させていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	馴染みの場との関係が切れてしまっている状態の方が多いが地域の行事や祭りへの参加など生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が生活の中で共に作業ができたり、共通の時間ももてるよう働きかけている。また、利用者間がトラブルにならないよう職員が間に入りながら対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が入院した場合は定期的にお見舞いを行っている。サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々に話を聞き、なるべく一人ひとりの思いを取り入れるように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者の居室を、ご本人の仲の良い利用者の方と一緒に訪ね、おしゃべりする「お宅訪問」をして、ゆっくりお話を聞くような時間を作っておられる。耳が遠い利用者には、耳の近くに寄り、低い声で話かけるようにされている。	職員は、利用者との日々のかかわりの中から、個々の状態や性格等をよく知っておられるが、利用者主体のケアを実践していくためにも、今後さらに、利用者が困っていることについて原因をひもといたり、又、ご本人の思いや暮らし方の希望等を探り、介護計画につなげていくような取り組みが期待される。利用者・ご家族と一緒に、利用者の「これまでのこと・今のこと・これからのこと」についての情報収集に取り組んでいかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者や家族との日々の会話の中から今までの生活状況・環境を聞き取るように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの現状を共有できるよう常に言葉かけを行いながら、一人ひとりの状態に合わせた対応が出来るよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	<p>スタッフ会や日々の朝礼、カンファレンスで意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。</p>	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	<p>日々の様子を記録するだけで終わらず、一人ひとりの状態を把握し気づいたこと等、記録していき、介護計画の見直しを始めている。</p>	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	<p>柔軟な支援の多機能化のためには、事業所だけでなく、協力者を探しながら取り組んでいきたいと思う。</p>	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	<p>一人ひとりが活用可能な地域資源を把握し、本人主体に活用できるよう支援していきたい。</p>	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医には適切な医療が受けられるように情報提供を行い支援している。また、かかりつけ医からの情報交換から医療的観察事項・介護上の注意点など助言をいただいている。	
			(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医に受診の際には、ご家族と一緒に職員も同行して、日頃の様子を医師に伝えておられる。又、ご家族が受診に付き添う場合は、事業所での生活の様子を記した記録を持参してもらえよう、用意されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員は日々の状態把握や様子観察を行い、異常の早期発見・早期対処を心がけている。異常の際は看護職員と情報を共有し、家族や協力医に報告・相談のもと対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が入院した際は、グループホームでの情報や申し送り事項などを報告している。退院時には、情報提供をいただき受け入れに対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事業開始間もないため、重度化や終末期ケアについては事例がないが、今後適切な対応ができるようスキルアップに努めたい。	
			(外部評価) 状態によっては、何度も入・退院を繰り返すような利用者の方もいるが、ご家族に「退院するまで居室を開けておくか」その都度お聞きしている。入院して退居となっても、その後の受け入れ先については、事業所からも紹介する等して支援されている。職員は「利用者の馴染みの場所である事業所で、ゆくゆくは利用者を最期まで看たい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応の実践力については不安が残る現状である。定期的に勉強会や講習会などに参加し、看護師を中心に実践力を身に着けたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は実施しているが、勤務状況により参加できない職員がいる。地域の自主消防団との連携・協力体制を築き強化したい。	
			(外部評価) 10月下旬の「自治会震災避難訓練」時には、利用者の身体状況に応じて、「介助の必要な利用者は敷地駐車場まで」「歩行自立の利用者は近くの一時避難場所まで」「職員は、二次避難場所の公民館まで」避難する訓練を行われた。職員は、地区の方達が集まる場所で、災害時には、事業所へも協力いただけるようお願いをされた。消防署の協力を得て事業所で避難訓練を行った際には、休みの職員も参加して、火災を想定した避難訓練や、利用者と一緒に消火器の使い方等を体験された。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄・入浴時などプライバシーを守り損ねないような言葉かけを行うように意識しているが、今後も尊重していくよう心掛けていく。	
			(外部評価) 施設長は、「利用者のプライドを大切にしたい」と思っておられる。申し送り時には職員同士でケアのポイント等、「自分で試してみて良かったこと」等を伝え合うようにされている。 職員は、利用者の楽しみごとの提供や出番・役割作りをされているが、職員のペースになってしまうことはないだろうか。「利用者が主体の生活をサポートする」というサービスの観点から、時には、点検するような機会も作ってみてはどうだろうか。この機会を活かして、理念にも照らし合わせて、すべての職員で振り返ってみてほしい。利用者の呼び方等についても、利用者の立場に立ち、考えてみる機会を作ってはどうか。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の言葉や思いを伝えられるような信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせて生活できるよう努めているが、個々の健康状態等を考慮しながら、職員側の都合に合わせてしまわないように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望で散髪の段取りを行ったり、お化粧ができる機会を作ったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来ることを中心に、共に調理を行ったり、自菜園で作った野菜や頂きものの野菜を活用している。行事食を大切にしたりしている。 (外部評価) 調査訪問時は、利用者は、全員エプロンと三角巾を付けて、おにぎりを握ったり、パンにハムやきゅうりを挟む等、調理にかかわっておられ、利用者と職員で作った食事が食卓に上り、職員も同じものを一緒に食べておられた。ヨーグルトを手作りされたり、手作りの玉ねぎの皮で作ったお茶は、血圧の安定にも効果があるようだ。10時には黒酢ドリンクを飲んだり、3時のおやつにはホームベーカリーでパンを焼いて、中にレーズンやしょうがを入れる等して、健康も考えて手作りされている。食後は、食器拭きをする利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量・水分量を確認し、毎食記録を行っている。栄養のバランスを考えながら献立を考えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、言葉かけを行い口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 車椅子使用の方も日中はトイレでの排泄が行えるよう支援している。排泄記録などを参考にトイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 日中は、トイレで排泄できるよう声をかけたり、誘導して支援されている。トイレにお花を生けておられた。夜間は、ふらつきがある利用者は、居室にポータブルトイレを設置して使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1日に1回ヨーグルト、黒酢や野菜衣ジュースなどを摂取していただいたり水分摂取量にも注意している。腹部のマッサージ体操や体操なども取り入れている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿うように対応し、入浴剤やかんきつ類の湯など楽しんでもらっている。体調に合わせてシャワー浴や清拭も行っている。	
			(外部評価) みかんの皮を干して入浴剤にして保湿効果を期待したり、入浴剤を入れたりされている。事業所は、開設当初は毎日入浴を支援されていたが、利用者の中で「毎日はいんどい」と言われる方があり、現在は週に3日、入浴する曜日を決めて支援されている。入浴を拒むような場合は、時間をずらしてお誘いしている。入居前に、利用していたデイサービスでも入浴していた習慣もあり、現在、入浴を嫌がるような利用者はおられないようだ。入浴しない日は、足浴を支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間・起床時間は決めておらず個々の希望にあわせて対応している。日中も休息したい方は自由に休んでもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	薬の情報はファイルに綴り職員がいつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時には副作用などの申し送り、状態観察を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	個々に合わせた楽しみや役割が持てるように努めている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	個々の希望に合わせた外出は職員の勤務状況により対応できる限り対応している。全体の外出も行事などへの参加を地域の方たちの協力を得ながら対応している。
			(外部評価)	
			法人のデイサービスから入居となった利用者も複数おられ、デイの利用者の方達と一緒に活動することを利用者も喜んでおられる。一緒に菜園でサツマイモ堀をされたり、ぶどう狩り等にも出かけられた。ベランダや駐車場や菜園に出て過ごすこともある。	職員は、「日々の食材の買い出しや外食、買い物等、利用者とお出かける機会を増やしたい」と話しておられた。日常の中でも、散歩や気分転換等、外にちょっと出かけていくような機会を積極的に作り、利用者と地域とのつながりを作っていくかたてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	個人で所有している方も数名いらっしゃるが、ほとんどの人が所持しておらず、家族が管理をしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	電話については、本人の希望時には使用できるように配慮している。積極的支援はできていない。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使用していたものや馴染みの物を使用できるように配慮している。共有スペースは季節の花や制作を貼ったりしている。	
			(外部評価) 事業所の駐車場は、車が何十台も止められるほど広く、時々、利用者が出て歩いたりされている。玄関や居間には、職員が用意した菊の花等を生けておられた。居間を広く取り、すべての居室、入口の戸を開けると居間にいられる造りとなっている。居室の戸を開放しておくことを望む利用者の方も多く、調査訪問時も開放したままベッドで横になって休む方がみられた。又、居間では、午前・午後とレクリエーションを行っておられ、居室の中の音が聞こえにくいこともあって、戸を閉める方には、足置を挟み、隙間ができるようにされていた。ベッドに横になったまま手をたたき等、レクリエーションに参加するようなこともあるようだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) それぞれの空間に椅子や畳を設置し、くつろげる環境づくりに配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使っていたものや、馴染みの物を使用できるように配慮している。安心できる空間づくりを心がけている。	
			(外部評価) 居室で読書をする方やドリルをする方もいる。リネンはリースになっており、毛布等を持ち込むようになっている。以前からファンの演歌歌手のCDやDVDを並べておられる方は、時々居間で皆で観て、楽しまれている。利用者は、疲れたら自室に戻り、休まれたり、午後1時半から1時間程度お昼寝の時間を作っておられる。ベッドサイドに水筒や急須を置いて、水分補給できるように配慮されており、又、夜間トイレに起きて来られた際に水分補給してもらうように支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) アセスメントに基づき利用者の力を引出して安全な生活がおくれるようにしていきたい。	